

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用語等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年1月30日(月)

【徒然】

かつて暗れた、普段の生活の中で、何か失敗をしたらどうしますか？

①自分のせいだ

②他人のせいだ

③誰のせいでもない
皆わたがりの力を
選んでしまった。

最近感じること
があったので話題
にしてみました。失
敗した時ってマイ
ナスの感情が働く
のでどうしても原
因を自分に見出し
たくなっています。
ね。でも、真期に
見るとこの様な傾
向のある人は失敗
していることが多
くありません。

ある本にこう書
いてありました。
「変化し得るもの
だけが生き残れる
という自然界の法
則は普遍的な原理」
自分の非を認め、
課題に対する改善
を図り、常「ラッ
ポート」していき
る人は、時代に
対応ができてい
る。人間関係も
仕事もうまく
やっています。

学校の大切役割「社会性の育成」②

対して、保護者の皆様はどのように考えられますか？ 私たちは法下則って日々の活動を行ってま
すので固いお答えしかできませんが、要は集団生活
を通して学力や人間関係能力を磨き、最終的には
民として人格の完成を目指すことです。このこと
は、甘い場面ばかりではなく、厳しい場面もあ
ることを覚悟してください。

前記の「ルールの重要性」を伝えることも、学校
の大切な役割であると感じてお伝えしました。
学校は集団生活を営む場所ですからルールがありま
す。また、学習の場でもあります。かなりの厳かな
ルールが守られることによって、社会性を育むこと
もできます。このこと、その学びの場での
行事で発揮されます。小学校6年間の最後の学
習発表の場「卒業式」です。

卒業式という、お子様の成長を改めて確認でき
る場があります。入学式からの6年の時を経て、保
護者として感慨に胸を打たれます。卒業時の子
供達は、精神的にもかなり成長しており、自我の芽
生えて親の束縛に対する疑問を感じ、些細なことで
対しても抵抗を感じるようになります。いわゆる思
春期の入り口に入っています。では、保護者
としての「子供達への向き合い方」はどのよう
なものでしょうか。キーワードは、主体性です。幼稚園や保
育園の卒園式では、子供達は親の言う通りに黙って
書き写されます。しかし、小学校の卒業式では、子
供達は自分で自分の姿を誇りに感じています。
卒業式で何を誇りたいのか、それを表現して
きた卒業式や先生方の指導、友達同士の情報交換
…。その様なことを総括して「自分は何を誇
りたいのか」という問いかけをします。子供達は
主体的に判断をします。子供達はその発表段階
に合った「相応しい姿」を知っています。子供
達が他者との関わりを通じて、主体性を育んでい
く過程で、いつかは、親は子供から離れてはな
りません。そのタイミングは各自の思いのままです。

私の中学時代 其の① 入学で実力テスト

私が中学校に入学したのは、昭和
54年です。真新しい学ランに白の
シヨルターバックで、熊本市立中
学校に入学しました。当時の中
学校はマンモス校で、1年生は13組
までありました。私は1年の組です。
現在のフリースポーツ校舎とは比べられ
ないほどの簡単な造りでした。私達の
世代は結構フリースポーツ校舎で過した
時間が長かったようです。新校舎が
できることになってはななななな
で、今でも楠中学校は当時のまま残
っています。今でも近所を通過
色々なことを思い出しています。

入学式の次の日、実力テストが美
施され、1つ歳の私は打ちのめされ
ます。占校による客観的な情報提供
があるからです。自分の順位を見た
時、驚愕…。小学校の担任の先生が
話して聞いてくれたのが、やはり本
当だったのだと改めて思った瞬間で
した。「これじゃいかん」と思っ
て、少し勉強した方がいいかなと。危
機感を持つことが重要かもしれません。
3年後には「受験」を控えて
いるわけですから、時間を無駄に
してはいけません。

自分でも何を誇りたいのか、
アンロールパンを勉強のモチベ
ーションにしようと思いついた。部活
なども参加する。生徒達は部活
も時間や自分をアンロールパン
に例えるようになります。このように
言うことが自分の夢を具体的に
持つことになるのです。危機感をも
つ、これがキーワードです。

シリーズ「自分を語る」#67

熊日学童ホールにビックの団体戦の進捗です。前
号で団体戦のシステムはお話ししました。シングルス
とダブルスがどのような順序で行われたかは、今で
ははっきり覚えていないのですが、進捗としてはシ
ングルス1つしかポイントを取っていませんでした。敗因
は私のオーダーミスでした。相手チームにはシング
ルスで優勝した選手がいたこととお話ししました。
この選手と私たちのエースが対戦することになり
、確実にポイントを取るための選手がポイントを取
り落としてしまったのです。進捗勝まで同じオーダー
で勝ち上がって来たので、シングルスは順位は変
えたとしても、エースをダブルスにエントリーする
ことは考えませんでした。しかし、考えてみれば
相手は確実にシングルスで確実に取ることとは当
然の戦略ですね。進捗勝は、私たちがダブルス
で勝つことになったのでした。そのま
で考えなかったのが、私の経験不足ですね。ダブル
スで一勝して、残りのシングルス2つのうちどちらか
を取れば勝つたわけですから、結果は想像できます
ね。1対2のダブルスで負けました。この時の対戦相
手は結局優勝しました。その話を聞いて、私も選手
も保護者も、非常に悔しい思いをしました。3位決
定戦は、スタートで勝利の表彰式まで出たけれど、
進捗勝の悔しい思いがどの様に展開されたかも
覚えておきましょう。

スポーツで勝つことは、このように駆け引き
きや心理戦が面白くないのでした。その中
に非常に難しさを感じたのでした。その後、数年
間部活動を担わせて頂き、改めて部活動の指導者
は何を伝えたいのかを考えました。結局たの
しいのは、「楽しんで運動に親でいて運動を通じて
心を磨く」運動を通じて他者を思いやり、協力す
る。この3点です。今でもそれは変わっていません。
五志郡市のバドミントン協会のお仕事のお手伝い
をしてながら、メンバーの悪い選手には、構わず「君は
バドミントンは何を学んでいて、何を注意し、言動
の確実な改善を求めています。」(ついで)